

會報



日本山岳會

142 號

ことしの山祭り

去年の六月、ウェストンさんのレリーフが神河内に再建され、簡素ながら除幕式をやつた際に、毎年この頃集まらうではないかとの話が持ち上り、今年は各支部へも連絡し、在京會員には會報で間に合ふように知らせた。

六月十二日朝松本驛前から貨切バスで中ノ湯まで、乗物をおりてからは、三十餘人が三々伍々谷をさかのぼつて、三時半、吹雪のやうに小梨の花が散る小梨平の天幕へ着いた。五時半、丸西の食堂に、東京からは横氏以下大勢、關西からは藤木西岡兩老以下大勢、中京から、信濃支部から總勢七八十人に及ぶ山仲間が集つた。席上、藤島西岡藤木横の各氏から、木暮、茨木、榎谷、クーリツヂ四故人の追悼談があり、山の先輩を偲んだ。夕食後、梓川原で、燃料不足の當節、氣がひけるほどの大焚火を圍む座談會。先輩の懷舊談、新進の

登はん談と興はつきなかつたが十時散會、めい／＼ねぐらにかへつた。十三日は九時から、清掃されたレリーフの前で一同默禱の後、藤島氏はレリーフの由来を、横氏は故翁の思ひ出を語り、婦人參會者の手で美しい野花の束が捧げられ、行事終了。あとは山を下るもあり、神河内で悠々組もあり、残雪豊かなる高みへグリースードを樂しみに登つた仲間もある。

書いてみれば、これだけのことが、山の仲間が毎年一回舊交新交を温めに、集る場所として神河内ならば申分ないし、その前後にあの邊の山を勝手に登り歩く機會ともなる。まだ今年は二度目だ。今後、趣向次第でこの集りをどのようにも向けてゆくことは出来るであらう。終りにい／＼盡力された信濃支部、松本高校山岳部、西穂小屋主人等へ深い謝意を表す。(ウェストン祭りといふことではじめたこの企ても「山祭り」と改められて、毎年六月に相集ふことにきめられた。)

夏季登山講習會

七月一日及二日午後五時半から交通文化博物館講堂において開催、内容及講師は左の通りであつた。パーティーの編成及その進行について 堀田 彌一 裝備及食糧 林 和夫 技術 今村 正三 危険について 谷口 現吉

内容充實した極めて有意義のものが

であつたが、時に餘裕なく宣傳が不十分なため聴講者は豫定に充たず。併し六十餘名が熱心に聴講した。(擔當者——林理事)

山岳総合展覽會

前號に豫告した展覽會は七月八日から十五日まで日本橋丸善の階上に於て開催。和洋山岳圖書、地圖、寫眞、繪畫、登山用具、高山植物標本等が展示された。圖書は歐洲アルプス、南北アメリカ、ヒマラヤ技術、案内、藝術、極地探検等に分類され、被災によつて多くの圖書が灰燼に歸したにも拘はらず貴重なものが集められ、添へられた故辻村、大島、板倉諸先輩の原稿やノートを興味かく熟視する人も少くなかつた。繪畫は中村、茨木、足立、矢崎登伯のものゝ外歐洲のものが掲げられ、茨木兼伯のスケッチ數點は故人を思ふよすがとなつた。登山用具を熱心に觀察する若人の數も多く、極地用天幕及屬品等の説明は更に詳細をつくすべく、又大同は各日の擔當理事が出来るだけ説明の勞をとるべきであるといふ論も出てゐる。欲をいへばきりがないうし、又これで満足とも思はないが、まづ終戦後行はれた展覽會として十分記憶されていゝものであらう。

講演と映畫の會

山岳展覽會開催期間中七月十日午後交通博物館講堂において次の内容で講演と映畫の會を催した。

山登りといふこと 松方三郎
スイスの山の旅 田口二郎
映畫「富士山頂觀測所」
「ウェストン祭り」

來會者は三百餘名に達し中々の盛會であつたが、その中に本會員の顔の見えるものが案外に少なかつたのはやゝ寂しかつた。

山岳、山—原稿募集

「山岳」は別記の通り河出書房に於て發賣九月中に戦後第一號を發行年四回發行の豫定。又從來交通

公社で擔當の「山」も河出書房と話がまとまり十月發行豫定の六號から同書房を煩はすことになつた就いては「山岳」「山」に對し全會員の熱心な御協力を願ひたく會員であるなしを問はず廣く原稿を募集する。

内容は改めて記す必要もないと思ふが山岳に關する
一、論説、研究、隨想
二、登山記録、紀行
三、紹介、書評、等々
四、寫眞、繪畫

圖書室再建資金募集

この計畫に付ては前號に發表した通りである。建築手續は着々進行しつつあるが、資金の方は専任擔當の藤島理事はじめ各理事懸命の努力にもかかわらず、八月末現在で目標の一割にも達しないといふ心細い状態である。背水の陣を布いた本會の立場を賢察され、我國登山界のために、會員諸兄應分の御寄附を茲に重ねてお願いする次第である。

(カットはその設計圖)

御送金方法

郵便小爲替或は送金小切手でも結構ですが、東京銀行本店本會名義普通預金口座(二八七號)へ御振込が便利です。



登山記録の蒐集 に就いて

「山岳」は日本登山界全體のため最も役立つものにしたい念願から今後有意義な登山記録及び遭難報告は一つ残らず會に蒐集一括して定期的に「山岳」誌上に發表したいと思ふ。これについては既に各地支部、各校山岳部、各地山岳會等に通知を出したが團體たる個人たるを問はず右の主旨に賛同の上積極的な協力を賜りたい。

會費納入につきお願い

本年度の會費については既に前號に記載しましたが、未だお拂込のない方も相當ありますので此の際は非御送金を願ひます。郵税其の他の物價も騰貴し會の財政も十分とはいへませんので會員各位の御協力を切望します。

在京會費は支部費共百圓、地方支部所屬會員或は地方在住會員は五十圓です。

御拂込なき方へ一々通知するのが建前ですが郵税も上りましたのでそれは省略します故御了承願ひます。

記録の種類はなにも初登攀とか積雪期のものに限らず、各方面よりみて有意義なものは出来るだけ多く御送り願ひたい。原稿は必ず山岳會内「山岳」編集係宛のこと

女子部懇談會

五月十二日 第一回を體育館にて開催。懇談及び今後の計畫等を研究、乾徳山、尾瀬ヶ原等の山行希望など相談した。参加者(久保田ふみ子、小高ひろ子、坂倉梨子、今井喜美子、坂倉登喜子、村井米子)

東京支部山行 (乾徳山)

五月二十九日—三十日 徳和の部落では故荒井道太郎氏に縁のあるお家に厄介になり、手打ソバの御馳走をうけ、ウグヒスツ、ドリの聲、舞鶴草、白花延齡草、蒲島草などの花に恵まれた幸多い山行であつた。参加者(石原憲治、林正夫、高島仁郎、淺田久美子、岡本豊子、小高ひろ子、坂倉登喜子、村井米子)

秋の山行豫定
尾瀬ヶ原 九月中旬 午後發山中二泊。申込は村井米子まで。

本年度東京支部 役員

東京支部長(東京都山岳會長)(松方三郎) 理事長(山下一夫) 常任理事(福井正吉) 兼主事、濱野正夫 村井米子、小野幸、鈴木正彦、坂倉登喜子、渡部悦雄) 理事(原全敬、堀田彌一、今村正二、今井喜美子、村松隆、大神田軍治、谷口

現吉、渡邊公平) 監事(河田植) 東京都體育會との連絡係(濱野正男) 五月二十一日東京支部理事會開催 新理事の顔合せ懇談を行ひ昨年度理事への感謝の件、及び今後の理事會は本部理事會と合同にて舉行問題の種類によつて分擔すること決議した。

理事會 其他

五月十五日 理事會
五月廿一日 東京支部理事會
六月二日 理事會
六月五日 用具配給委員會
六月廿四日 理事會
七月三日 理事會
七月十日 講演會後理事會
七月十八日 甲府に於ける南嶺會主催の講演映画冒に松方、谷口副根出席、懇談會の席上山梨支部設立につき意見交換す。

七月一日—二十日 交通公社中央事務所に開設の登山相談所に理事有志は輪番出席した。
月廿三日 理事會
八月十三日 理事會(國民體育大會の件、組織擴大の件)

各支部

山梨、南嶺山岳會及び甲府岳連を中心として支部誕生の運びになりつゝある。
三重、山形、香川に於ても支部設立の準備が企てられてゐる。
常務理事増員
下記四名を追加する。山下一夫、入澤文明、林和夫、關根吉郎。

第三回國民體育 大會に就いて

右については豫てから本會及び福岡支部に於て鋭意準備中であり前號に發表した内容を以て舉行の豫定である。参加希望者は九月三十日迄に本會事務所及び福岡支部宛御申込を願ひたい。

次に體育大會に於ける表彰講演者の選抜は極めて困難な問題であるがその選抜は日本山岳會常務理事各支部長、福岡山岳連盟より一名を以て委員會を組織し慎重協議の結果決定する豫定である。

國民體育大會に關連し本會は會の組織擴大強化を計るため各都道府縣體育課に對して各地區別の支部設立方を依頼し、又一方地方在住の有力會員に對しては支部設立に際し積極的な協力と援助とを切に望む次第である。

更に明年度の第四回國民體育大會は目下構想をねつてゐるが案としては場所を富士山とし十月乃至十一月の候を選びアイゼン、ビツケルを必要とし出来れば雪上露營等も含めたより高度の技術普及を眼目にして舉行したいと思ふ。

三月の行事豫定

來春積雪季の山を對象として極地法研究の講習會を行う豫定である場所は目下富士山の豫定。主催は東京都山岳會及東京都體育協會、後援は日本山岳會。詳細は追て發表する。

★ 山日記 ★

待望久しき本年度の山日記は豫定より大分遅れたが九月十五日發刊の豫定。御希望の方は至急御申込下さるやう願ひます。

新入會員

番號	氏名	住所
二八五八	麻野 俊助	香川縣
九	江田 武三	福岡縣
二八六〇	大谷 要	下關市
一	齋藤 捨治	福島縣
二	鈴木 安雄	"
三	久木 泰雄	"
四	深澤 達治	"
五	岩瀬 良一	"
六	齋藤 啓助	"
七	齋藤 晉藏	"
八	山本 芳就	東京都
九	新井彦太郎	桐生市
二八七〇	石川忠次郎	"
一	原田 亮	横濱市
二	村松 孝一	東京都
三	柳井貴美子	船橋市
四	小竹 木廣	東京都
五	富澤潤之助	高岡市
六	谷井 毅夫	東京都
七	高橋 達郎	長野縣
八	丸山 尙一	松本市
九	小里 頼忠	"
二八八〇	姫川 小糸	長野縣
一	江波 戸昭	東京都
二	大岡 忠一	"
三	佐藤 幸治	北海道
四	高田 富晃	東京都
五	猪狩 博信	横濱市
六	三井 松男	甲府市

★ 冬山講習會豫告 ★

○時 十一月二十一日—二十三日

○所 富士山(吉田口より)

○人員 約百名

○講師 各山岳部O・B及び都内山岳會の有志に委嘱の豫定

○希望者は申込金五十圓を添へて十月二十五日迄に本會事務所迄申込のこと

右のやうに冬山講習會を催し冬山の正しい技術の普及を計畫してをりますから特に若い會員諸氏の参加を期待いたします。細目は何れ決定次第發表しますすが、大體五名位のパーティーにリーダー一名をつける豫定です。準備の都合もあり希望者は成可く早く御申込を願ひます。(擔當理事 堀田彌一)

七	村松 賢三	甲府市
八	深澤 喜一	"
九	浅川 和男	"
二八九〇	高室陽二郎	"
一	篠原 要仁	"
二	中澤 春夫	"
三	小池 義政	"
四	生原 徳明	山梨縣
五	中橋 友三	甲府市
六	石井 新八	"
七	原 二三雄	"
八	田之口竹之助	"
九	鶴田 一郎	山梨縣
二九〇〇	清水 榮吉	甲府市
一	内藤 英久	"
二	鳥居 俊雄	"
三	直田 次郎	"
四	石川 久雄	"
五	齋藤 俊哉	"
六	遠藤 武夫	"
七	百瀬舜太郎	"
八	今澤 茂	甲府市
九	井上 哲夫	"
二九一〇	水口 彌	"
一	今井友之助	"
二	石子 藤治	東京都
三	丸山 敏夫	"
四	松本 志郎	石川縣
五	山田 誠夫	金澤市
六	森 彰二	"
七	木村 桂	"
八	羽場太喜男	石川縣
九	吉本 健	"
二九二〇	宮岸 紀	金澤市
一	彌永 耕一	久留米市
二	舞谷 清	金澤市
三	遠山 太郎	"
四	中山 信夫	石川縣
五	古川 洋	浦和市
六	野村 泰造	東京都
七	近藤 慶三	"
八	石井 清	"
九	關 朝秀	東京都
二九三〇	佐々木邦雄	横濱市
一	鈴木 保	東京都
二	小川 清	"
三	龜田 英二	"
四	森 いづみ	"
五	聖南山岳會	"
六	田中 恵	"
七	日鋼山岳會	高岡市
八	鈴木 千載	東京都
九	志野 藤平	大和
二九四〇	平野 桂三	多治見
一	島田 久吉	新潟縣
二	柳 政司	"
三	小野塚興一	"
四	柳 種治	"
五	山本 光雄	"
六	村山 政光	"
七	阿部 道夫	"
八	鳥田 重春	富山市
九	高島 士郎	"
二九五〇	奥野 綱重	"
一	山岳スキー連盟	高岡市
二	藤平 康吉	高山市
三	吉川 良平	富山縣
四	岩川 毅	小樽市
五	三浦 欣哉	東京都
六	相模野會	"
七	服部 早苗	"
八	龜田 恆男	"
二九六〇	林 正夫	"
一	福山 佳辰	"
二	岩井 博	"
三	永井 春雄	"
四	坂本 兼次	"
五	河田 豊吉	"

六	河田 豊吉	"
五	坂本 兼次	"
四	永井 春雄	"
三	岩井 博	"
二	福山 佳辰	"
一	林 正夫	"
二九七〇	龜田 恆男	"
一	服部 早苗	東京都
二	相模野會	"
三	三浦 欣哉	小樽市
四	岩川 毅	富山縣
五	吉川 良平	高山市
六	藤平 康吉	富山縣
七	山岳スキー連盟	高岡市
八	奥野 綱重	"
九	高島 士郎	富山市
二九八〇	鳥田 重春	"
一	阿部 道夫	"
二	村山 政光	"
三	山本 光雄	"
四	柳 種治	"
五	小野塚興一	"
六	柳 政司	"
七	島田 久吉	新潟縣
八	平野 桂三	多治見
九	志野 藤平	大和
二九九〇	鈴木 千載	東京都
一	日鋼山岳會	高岡市
二	田中 恵	"
三	聖南山岳會	"
四	森 いづみ	"
五	龜田 英二	"
六	小川 清	東京都
七	鈴木 保	横濱市
八	佐々木邦雄	東京都
九	關 朝秀	東京都

日本山岳會編集 山 岳 季刊 A5版 150頁 豫定價150圓

目次

- エヴェレスト登山の研究(其一) 高處露營地の問題 關根 吉郎
 白馬岳志雜攷(上) 中島 正文
 北部大興安嶺縱斷紀行(其一) 吉良 龍夫
 根河……………
 登山家マムと日本山岳會の人々…小島 鳥水
 憶 木暮理太郎 (武田久吉・日高信六郎) 藤島敏男
 追 茨木猪之吉 (中村清太郎・交野武二)
 アルバイン・ノート 雜錄
 發賣 河 出 書 房

東京都千代田區神田小川町三ノ八

日本山岳會共同編集 山 10月號 A5版 64頁 價 45圓

- 東洋の山と西洋の山……………田口二郎
 山への思慕……………田部 重治
 旅情といふこと……………深田 久彌
 ◇特集 富士山共同研究(座談會)◇
 山岳週邊(山の町の思ひ出・岩場・山小屋・雷鳥)
 ナンダ・コート登攀記……………堀田 彌一
 究 岩登について……………伊藤 洋平
 研 山行ルート三箇所……………山 岳 會
 中川入山公の登山具(繪と文)足立源一郎
 山友達(上條嘉門次)……………榎 有恒
 秋山の寫真技術……………額田 敏
 山の料理・携帶食糧……………黒田 初子

東京都千代田區神田小川町三ノ八

發賣 河 出 書 房

七	赤尾 幸子	東京都	九	今井 幸吉	新潟縣
八	村崎 勝行	東京都	一〇	石井平八郎	新潟縣
三〇三	渡邊 兵力	東京都	一	大江 徳次	新潟縣
一	小澤 綾子	東京都	二	山本清次郎	新潟縣
二	岡本 豊子	東京都	三	酒井 五郎	新潟縣
三	河合 淳治	東京都	四	今井 一策	新潟縣
四	北城 峻秋	東京都	五	小林 正治	新潟縣
五	塚原周市郎	東京都	六	桐生 正司	新潟縣
六	奥村 健一	東京都	七	青木太郎吉	新潟縣
七	杉原 泰子	東京都	八	五十嵐三郎	新潟縣
八	奥 元朝	東京都	九	石黒 清介	新潟縣
九	小柴 一雄	東京都	一〇	清水 正道	新潟縣
三〇四	木村 誠治	川崎市	一	稻田 正三	新潟縣
一	坂倉登喜子	東京都	二	皆川 信一	新潟縣
二	今井 雄二	東京都	三	星野邦之助	新潟縣
三	川崎 精雄	東京都	四	高林 弘一	新潟縣
四	山上隆之助	東京都	五	杉山 正壽	新潟縣
五	大竹 清	東京都	六	高林 熊七	新潟縣
六	原 全教	東京都	七	島 喜作	新潟縣
七	高橋 照	東京都	八	高橋 英夫	新潟縣
八	菅野 豊	東京都	九	渡邊 悦男	新潟縣
九	村上勝太郎	東京都	一〇	石黒 武久	新潟縣
三〇五	寒竹 進	東京都	一	佐藤 嘉市	新潟縣
一	植松 清作	東京都	二	岩井 松英	新潟縣
二	奥田 節子	東京都	三	杉井 賀親	新潟縣
三	青柳 篤幸	東京都	四	井上 定夫	新潟縣
四	大橋邦太郎	東京都	五	欄木 敏郎	新潟縣
五	京増 源一	東京都	六	小田 眞道	新潟縣
六	太田垣榮一	東京都	七	芳田 美枝	新潟縣
七	佐藤幸四郎	東京都	八	月村 文吾	新潟縣
八	吉川 充	東京都	九	大賀 知巳	新潟縣
九	西丸 震哉	東京都	一〇	武井 辰雄	新潟縣
三〇六	中島 進	東京都	一	佐々木 信	新潟縣
一	松下 英夫	東京都	二	篠崎 二郎	新潟縣
二	片山 敦一	東京都	三	中山 俊夫	新潟縣
三	高橋 三郎	東京都	四	飯島 元次	新潟縣
四	田村 太市	東京都	五	飯島 重光	新潟縣
五	八田村 太市	東京都	六	飯島 重光	新潟縣
六	渡邊 季正	東京都	七	飯島 重光	新潟縣
七	桐生 次郎	東京都	八	飯島 重光	新潟縣
八	田村 太市	東京都	九	飯島 重光	新潟縣
九	田村 太市	東京都	一〇	飯島 重光	新潟縣

前日本山岳會長 横 有恒著
アルパタ初登
頂詳録を加ふ
補訂版 B 6三四〇頁 實價一〇〇 價二二〇〇 送二五円

東京芝田村町2の9
川長運輸ビル
岡 書 院

會員計報

荒井道太郎氏(會員番號一四二九、昭和八年三月入會)昭和十九年二月病死さる。
湯淺巖氏(會員番號一四九六、昭和八年十二月入會)昭和十九年七月十八日サイパン島にて戦死さる。
美木富士哉氏(會員番號一七三八、昭和十三年五月入會)昭和二十一年一月十三日渥美半島にて戦死さる。
飯塚篤之助氏(會員番號五五四、大正六年八月入會)昭和廿年五月十日戦死さる。
宮崎武夫氏(會員番號一三六四、昭和七年五月入會)昭和二十年六月八日病死さる。
高瀬進三氏(會員番號一一九六、昭和五年六月入會)昭和二十年六月二十一日河北省曲陽縣東諸侯にて戦死さる。
林 俊介氏(會員番號一六〇五、昭和十年九月入會)昭和二十年七月十日南洋群島セントアンドレウ諸島ソントル島にて戦死さる。
黒田孝雄氏(會員番號六四一、大正七年十一月入會)昭和廿年八月十七日比島にて戦死さる。
小谷部全助氏(會員番號一七七六、昭和十四年四月入會)昭和二十年十二月十三日肺結核にて病死さる。
榎谷徹藏氏(會員番號一三七、明治四十年十二月入會)昭和二十二年八月二日榮養不調にて逝去さる。
高橋健治氏(會員番號一一三四、昭和四年九月入會)昭和二十二年十二月二十七日病死さる。
山本雄一郎氏(會員番號一九〇七、昭和十六年五月入會)戦死さる。
關山徳三郎氏(會員番號一一七八、昭和五年五月入會)戦死さる。
太田又一氏(會員番號一一八三、昭和五年五月入會)戦病死さる。
本會は幾多有意なる會員を失ひたること惜み深く哀悼の意を表する。